

単元名：「防災と自然について、過去をふりかえりながら今の自分にできることを考えよう。」

【知・技】

(5)ア(ア)県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりなどの産業の発展に努めていることを理解すること

【思・判・表】

(5)イ(ア)特色ある地域の自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに、着目して、それらの特色を考え表現すること。

【学びに向かう力、人間性等】

(3)よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

1. 構想（児童のつぶやきから）

学校にある防災倉庫の中身を見て、「つるはしやハンマーなど人を助けたりする道具が入っているのが驚きだった。」防災リーダーさんのお話を聞いて、「自分が聞いた話を家族にも話したい。また、家族の命を守れるようにしたい」など、自分ができることは何か、防災にどう向き合っていくかを考えている児童が多い印象だった。

→一方で、自身の生活で防災を身近に感じていない現状がある。実際にアンケートで家族と防災について話したことがあるかと問うと、半分の割合であった。また、自分の町でどんな災害があったかについても、2割ほどしか知らない結果だった。

そこから、防災についてもっと興味を持ってもらい、次世代につないでいけるような授業を考えていきたい。

2. 他教科との関連、構想

- ・国語科「未来につなぐ工芸品」「工芸品の魅力を伝えよう」
- ・総合「町に、人に、自然にやさしい」
- ・道徳「お父さんのじまん」「ロバとヒキガエル」絵本「もうじきたべられるぼく」を教材とした命の学習
- ・行事 やまのこ自然体験学習

3. 単元について

●単元観

習得させたい力	自然の働きについて知り、災害という面においても自然と自分たちの生活との関係を理解する。先人たちの活躍によって、町が守られていることに気付く。
---------	--

活用させたい力	学んだことから自身の課題を見つけ出し、ともに生きていくための方法を見つけ出す。 受け継いでいく立場として、今までにあった災害を伝えるためにどんなことを知っておくか、考えを深めていく。
---------	--

●指導観

今までに、社会科と総合を中心に「自然災害」や「自然にやさしいもの」などについて学んできた。また自然体験学習に向けて、森林の働きを学んだ。そこには、つながりがあることも学級で共有し、学んだことが無駄にならないことを伝えるために、私生活につなげて考えることもおこなってきた。また、表現活動として学んだことを周りに伝えるという意味で、新聞づくりも行った。さらに、実際に触ったり、匂いだり、聴いたりの実体験を生かした学習も加えた。

●児童観

積極的に物事に取り組む姿勢が強い一方で、周りに意見を伝え、表現することには苦手意識をもつ児童が少なからずいる。そこで、操作しやすいタブレットを用いて調べ学習をし、伝えられる情報を集めることを最優先に大事にした。そして、集まった情報を国語科で学んだこともふりかえりながら、まとめ方を確認した。よってまとめて表現する力もこの单元では身につけてほしい。

さらに、地域への関心として、滋賀県の豊かな森について知り、守っていききたい、大事にしたいという思いを持って将来社会を築いていく人として自覚をもたせたい。

4. ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

責任性…自分事としてとらえ、他者を巻き込んでみんなで考える。

相互性…体験学習から人々自然とともに生きてきたことに気づき、自然がもたらす力が私たちの生活も豊かにしている背景について理解する。

本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

<未来を予測して計画を立てる>

・災害について、向き合っていくために情報ツールをもとにして生きる術を探していく力。

<他者と協力する態度>

・自分が学んだことを周りに発信して、つながりをもち、一緒になって考えようとする力。

本学習で変容を促す ESD の価値観

<世代間の公正>

先人から得た知恵をもとに“今”をどう生きるか考え、未来につないでいく。また、地域や県での取り組み、工夫について興味を持ち、生かしていこうとする態度を育む。

達成が期待される SDG s

11 住み続けられる町づくり 15 陸の豊かさを守ろう

5. 指導計画

●本時の目標：自然の働きと防災とのつながりを理解する。

●本時の展開

導入	森について学ぶために、森のはたらき（8つ）や構成しているものについて簡単に説明。 ・自然の働きに防災と関わることはあるか	騒音を防ぐ、空気を浄化、水の浄化、癒し効果、土砂崩れから守るなど
森などの自然の働きについて発見したことから、防災とつながるところを見つけよう。		
展開	○現在の学校や家など、建物の構造はどうなっているのか ・耐震工事がされている ・地震に強い ○自分の町で災害にあったことを考え、どんな対策がされているのか ・避難場所には防災倉庫が備えられている ・道路際に、鉄の策がされていて、山が崩れないようにされている ・高架の柱には、鉄のロープのようなもので固定している。 ○自然にやさしいは、防災とつながるのか ・木を良くすることも森を守って、土砂崩れなど未然に防ぐのではない	自分の町でどんな取り組みがされているか、そして地図を見ながら、危ないところはどこかを確認する。（土地の様子） 自然をまもることが町や人を良くして、時に命を守ることもつながる。
終末	・間伐覚えてますか（前時の復習） 役割について考える（間伐材として利用、森を元気にする、光を中に差し込めるようにする） ・むだなく使おうという気持ちが町をよりよくして、持続可能な社会をつくっていくことができる（ノート、椅子や机） ・山や森、川を守ることは、私たちの生活も良くしてくれる。 ☆昔の人は、そうやって過ごしていたんだ。だれが見つけたのだろう。	次の自然体験学習で学ぶことにもふれる ふりかえりに、もっと知りたいこと・気づきを書いて、次の学習につなげる。 【ワークシート】

【今後の学習の流れ】

自然体験学習が終わってから、自然の写真展をひらく。道徳で命とは何かについて考え学びを深め、定着を促す。